

原発を考えるあわら市民の会講演会

福島原発事故を踏まえて、 全ての原発をもう動かさないために

日時：9月29日（日）14:00～16:00

場所：金津本陣 I KOSSA 3階大ホール

あわら市春宮二丁目 14-1

（7月にオープンしたあわら市施設・金津神社そば）

参加費 ￥500

主催 原発を考えるあわら市民の会

連絡 090-3292-9029（中野）

☆☆どなたでも参加歓迎☆☆

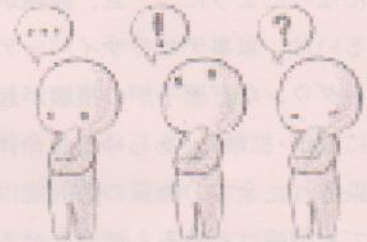
科学的に事実を知り
一緒に考えよう

原子力規制委員会新基準？

原発再稼働、汚染水漏えい

大飯活断層、安全、未来

.....



講師：山本富士夫

（福井大学名誉教授・流体力学）

福島第一原発事故を明らかにしよう！

原発の安全神話を崩壊させよう！

原発の必要神話から抜け出そう！

原発のない新しい社会を作ろう！

山本富士夫先生のプロフィール

福井大学名誉教授・工学博士

日本科学者会議 原子力問題研究会委員・同福井支部代表幹事
専門：流体力学、エネルギー変換工学、機械工学

1940年福井県鯖江市に生まれる。長年日本科学者会議の中心メンバーとして、熱流動解析と巨大システムの危険性を含む原発に関わる諸問題に40年間取り組んできた。2011年の福島原発事故の後には、原発をなくし、自然エネルギー利用の新しい社会を作る運動を進めている。

メール会員募集中

原発を考えるあわら市民の会では、原発問題に関する集会・学習会のご案内及びあわら市地域を中心とした原発関連情報を配信させていただいています。

メールニュース受信またはニュース投稿ご希望の方は、住所氏名を明記の上、下記宛てご連絡下さい。

naka-mitsu@tranzac.jp（中野）

携帯電話での受信・投稿も可能です。

講演概要

2011年3月11日に発生した超巨大地震とその後に襲来した大津波が原因となって、東京電力(株)福島第一原子力発電所の1号機から4号機の4基が重大事故を起こしました。国会事故調報告では、福島原発事故は、自然災害と人為ミスによる人災が複合したものであると断じています。人間は、自然災害の地震や津波だけでなく、最近よく発生する竜巻、落雷もゲリラ雨も制御できませんが、それらによって引き起こされる災害を最小限にとどめるための叡智をもってはいるはずですが、フクシマの場合、地震と津波の発生に備えるように警告した科学者がいたにもかかわらず、東電と政府は、そのような科学者の警告を無視し、災害を拡大してしまいました。

営業運転中の原発は、人為ミスも自然災害もなければ、いわゆる正常運転が可能です。それでも実はぎりぎりの線上で制御されているに過ぎません。フクシマで明らかになったように、一旦、原発が自然災害や人為ミス、あるいは、軍事テロやサイバーテロに見舞われると、メルトダウンなど原子炉の損壊が起こり、放射性物質が環境に放出・拡散し、あらゆる生命体と環境を破壊します。汚染された全ての物質の放射能は、人の手では煮ても焼いても消滅はもちろん減少させることもできず、放射性崩壊による自然減衰に委ねるしかありません。

さて、今回の講演では、三つの安全神話(①「止める、冷やす、閉じ込める」、②「原子力規制委員会の新基準」、③「原子力安全文化」)を科学的論拠をもって批判します。また、フクシマの惨禍を見てもまだ、原発の再稼働を主張する政府・財界とそれに同調する原発推進者たちを、彼らは電気料金やCO2の問題に特化した「原発必要神話」に溺れているとして、批判します。彼らは、原発を「安全第一」で運転すると言うだけで、実は「経済第一」(金儲け第一主義)で暴走しています。彼らには、科学と倫理に対する畏敬の念が欠如しています。

原発をなくした後のエネルギーとしては、ドイツでの好例に見られるように、自然エネルギー(再生可能エネルギー)に転換し、放射能汚染の心配がない新しい社会を構築すべきです。原発関連の雇用の問題も解決されず。このような運動は、希望の持てる明るいものとなります。

今、国民の過半数が原発のない社会を望んでいますが、政府は、国民の声を聞くことなく、原発を再稼働させようとしています。国民と政府の間には、大きな意識の「ねじれ」が存在しています。そのような「ねじれ」を解消し、国民の声が政治を支配するためには、私たちの草の根運動を強めて行く必要があります。(山本)

会場

IKOSSA 地図

金津神社の隣

3階建

